

# 第4回 国道229号乙部町館浦地区斜面对策技術検討会

## 議事概要

■ 第4回検討会：令和4年3月14日（月）15時00分～17時00分

### 【議題】

- ・ 前回までの技術検討会の概要
- ・ 既往文献等を活用した調査結果について
- ・ 恒久対策工における対策案の比較検討について
- ・ 対応方針（案）のまとめ

### 【議事概要】

（既往文献等を活用した調査結果について）

○事務局より、前回までの技術検討会の概要及び既往文献等を活用した調査結果について説明し、委員より以下のとおりご助言いただいた。

- ・ 地形、地質状況に関する調査結果については恒久対策検討ルートへの地すべりの影響がないこと、及び中間沢部の河床部の崩土堆積が少ないことから、落石・崩壊の頻度は低いと推察され、恒久対策工検討上の課題にはならないとの想定は妥当と考えられる。  
なお、中間沢部における、落石・崩壊の頻度は低いとの推察であるが、万が一土石流等が発生した場合、路線への影響が大きいことから、土砂を受けることができる十分な空間を確保する構造形式とすることが重要である。
- ・ 現トンネルに関する調査結果については既往地質データや施工実績等から、トンネル施工の安全性には影響がないとの想定は妥当と考えられる。
- ・ 土石流の影響に関する検討結果については、起点側沢部において、最大のリスクを想定した土石流規模を元に行ったシミュレーション結果から、土石流の影響を回避するルート選定が可能との判断は妥当と考えられる。
- ・ 地域資源に関する調査結果については、恒久対策工の検討にあたり、地域資源である現道斜面を極力改変しないルート選定が望ましいとの想定は妥当と考えられる。

（恒久対策工比較検討および対応方針（案）のまとめについて）

○事務局より、恒久対策工における対策案の比較検討について及び対応方針（案）のまとめを説明し、委員より以下のとおりご助言いただいた。

- ・ 対策案については、事業費・事業期間、施工時の安全性、維持管理面等を考慮し、トンネルによる別線整備が妥当と考えられる。
- ・ 当該区間は、北海道全体のネットワークを考えた時にも重要な路線であることを認識し、早期の整備を進めることが重要である。
- ・ 今後は、トンネル構造等の詳細検討が必要となるため、地形・地質の詳細把握（調査）を行い、地域への影響、自然環境への影響、事業費等に配慮しながら、可能な限り事業期間の短縮を図った計画を進めることが重要である。